社会福祉法人「調布を耕す会」 会報「耕す会」
2024 年 4 月号
コラム:「イイね！ こんな居場所」#14

まごじば ── 子どもたちと高齢者をつないで地域を豊かに

甲州街道の下布田にある國領神社に早朝から子どもたちが集まってくる。12、3 人がなれた様子で敷地内の建物に入り、2階に上がっていく。そして、ほどなく、「いただきま～す！」が聞こえてくる、今日の朝ごはんは具だくさんスープ、ケチャップライス、ブロッコリーとベーコンの燻製マヨサラダだ。賑やかに食事を終えると、「行ってきま～す！」と歩道橋から、反対側にある八雲台小学校に登校していく。

これは毎週木曜日に見られる「まごじばモーニング食堂」（通称「MM」）の光景で、市内の「まごじば」という団体の活動の一つだ。サポーターやボランティアが 10 人くらい6時過ぎから調理を始めて準備をし、子ども達に朝食を無料で提供している。

「まごじば」とは「まご、じいじ、ばあば」という意味で、地域の子ども達と高齢者を繋ぎ、世代を超えた活動を通して地域を強く、豊かに、安全にしていくことを目指している。2023 年 7 月に多世代食堂を始めて開催してから活動はどんどん拡がり、今年の 4 月に一般社団法人「まごじば」として認可された。

「だって、本当にこれでいいの？と思ってしまったんです」、というのはこの法人代表を務める千坂真衣さんだ。ご自身が子ども 4 人の母親で、夫とともに PTA や地区協議会などの地域活動に積極的に関わってきた。が、コロナ禍で一斉に活動がなくなり、いざ再開しようとした頃、子育て世代の PTA や地域への関心が薄れていて、地域の繋がりが弱くなってきたことに危機感を抱いた。千坂さんが同じように感じていた親世代の有志と共に自主的に動き出し、誰でもが来られる地域の「居場所」を作ろうと様々な「まごじば」場面を展開してきたのだ。

例えば 朝ごはんの他にも、屋外活動などの場で食事を提供する「出張食堂」や多忙な親に食料品などを提供する「プレゼントパントリー」がある。また、深大寺自然広場（通称かに山）で子どもが楽しむ「自然遊びの会」を開きながら、ここにプレーパークを誘致したいと動いている。地域の大きな行事では他の団体や組織としなやかに協働するが、八雲台小学校 PTA 主催の「夏休みラジオ体操」や「アオハルフェス」（子ども実行委員会が企画・運営）では、団体内の「じばさま会」が「昔あそびの会」を催すなど、活躍した。同会は食事会兼理科実験教室を行ったこともある。

「誰でも来られる、居られる『居場所』」を目指しながら、活動の場所を固定せず、活動内容で場所を変えるというのも、この団体のユニークな特徴だ。活動を支えるのはラインで繋がっている、30 人ほどのスタッフ、サポーター、ボランティアで、その他にも地区協議会のつながりから知り合った多くの人たちが手を差し伸べる。

「結局、子どもの幸せのために大人が動けば地域が豊かになり、その子どもたちが次に地域を担って行くとおもいます」と千坂さんは言う。活動の場には食べものがあり、活動を共にすれば子どもにも大人にも地域に親しむ気持ちが育つ、それが大切だと彼女は考える。「まごじば」の理念やスピーディな動き、関わる人たちの集まり方、身軽な活動展開スタイル、ラインなどの SNS を駆使するコミュニケーション──これら全てを通して、子育て真最中の親世代が新しい息吹を地域にもたらしている。「まご」と「じば」を繋ぐとはいえ、その間に位置する親世代を愉しく巻き込んだ「居場所」だとも言えそうだ。

文責：村上むつ子

「まごじば」

Website：https://magojiba.or.jp/

Instagram: https://www.instagram.com/magojiba/

Email: magojiba.info@gmail.com